

ふるさと奥尻通信

令和4年12月26日
奥尻町教育委員会発行
事務局:01397-2-3890

海洋研修センターと稲穂ふれあい研修センターにて無料配布しています。奥尻町役場ホームページからもダウンロードできます。

巻頭言

これまで奥尻では木の生育が悪く、不採算のために「法人の森」制度適用外であったところ、「不採算でも森林復興をしたい」という工藤社長の熱意により実現したものである。

特集 「復興の森」開園物語

奥尻地区から島の中心部へ向かう町道中央線を登り、さらに西海岸へつながる道道奥尻島線に入ると、自衛隊基地へ向かう分岐点に到達します。そこを過ぎて間もなく、勝間山に向かう入り口のすぐ手前左手に、「21世紀復興の森」と書かれた看板とログハウスが建っています。ここは、国有林を一般に開放した場所で、適度に整備されているので自由にハイキングや自然観察ができる貴重な森です。

この森は、1995年2月に島内の建設業者である工藤組が社会貢献活動の一環で林野庁と「分収育林契約」を結び、以後40年間借り受けて管理してきたものです。その目的は、自然環境の保全と形成、地域社会への貢献、町民相互の親睦を図る、というものでした。

管理運営の主体として、21世紀「復興の森」実行委員会(会長:工藤実社長)を結成し、工藤組社員、役場農林課林務係、奥尻森林事務所森林官、ほか一般有志らが広く参画していました。整備の結果、95年5月26日に開園式を行い、以降毎年2004年頃まで「山開き」として継続していきました。



出来た炭は製品として販売



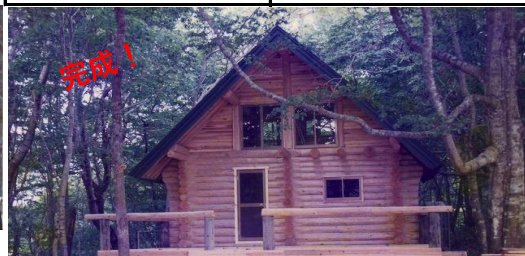
雪の中、建設は進む

1995年10月26日、第1回目の秋祭りが開催され、約300名の参加の下、自然観察、炭焼き、丸太早挽き競争、BBQ等が催されました。ちょうどその頃、北海道大学農学部の学生らが森の入口にログハウスを建てる案を提案してきたのですが、これに腕に覚えのある地元有志が協力することとなり、10月13日より作業が始まりました。開発工事で伐採された地元の杉の木を材料として、学生の石橋仁さんが設計した仕様で造り上げていきました。降雪の中作業は進み、12月20日に上棟し、年内の作業を終えました。翌春より作業を再開し、10月までにサッシ入れ、屋根タン葺き、諸作業が行われ、約1年がかりで完成しました。1996年10月12日の秋祭りにて、完成を祝うセレモニーとお披露目があり、携わった学生さんらが登壇して、拍手を受けました。

その後、「復興の森」では毎年5月か6月に山開きと10月に秋祭りが開催され、多くの町民を集めました。2002年の山開きでは、「希望の森 植樹祭」と題して約200名参加の下、シラカバとミズナラ150本づつを植樹しました。翌2003年の秋祭りでは「北の魚つきの森」認定式があり、北海道南西沖震災後10周年に合わせてのパネル展や地元の吹奏楽団による森の音楽会が開かれるなどしました。しかし、その翌年2004年の秋祭りは、9月7日～8日に北海道の広範囲に被害をもたらした台風18号災害(島内での被害額16億7500万円。神威山で風速52.2mを記録)により中止となりました。その後、工藤社長の逝去や実行委員会メンバーの転勤や異動などもあり、以降の活動が次第に下火になってきた時期もありましたが、現在まで園内の整備を続けながら、町民への開放を行っています。

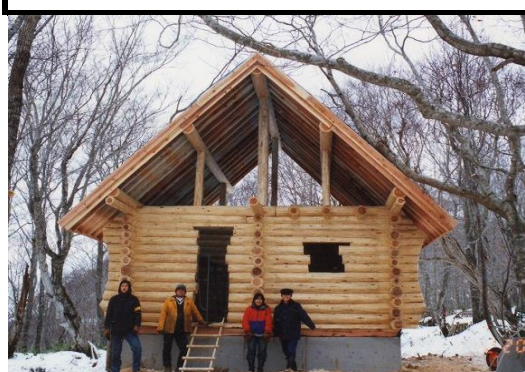
21世紀「復興の森」開園の歴史

1994年4月	分収育林契約申し入れ
1995年2月22日	分収育林契約締結
1995年4月14、15日	炭焼き体験講習会
1995年5月	実行委員会を結成
1995年5月26日	山開き(開園式)
1995年7月	木炭生産、頒布開始
1995年7月19日	一般会員募集開始
1995年7月30日	きのこオーナー募集
1995年8月	オクシリエビネ植栽
1995年10月13日	ログハウス作り着手
1995年10月23日	第2回秋祭り開催
1995年12月20日	ログハウス上棟
1996年4月26日	イシヅチ植栽
1996年5月頃	イシヅチ盗掘被害
1996年10月10日	ログハウス概ね完成
1996年10月12日	秋祭りにてテープカット

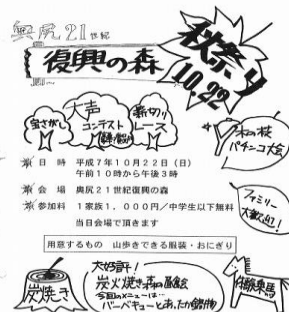


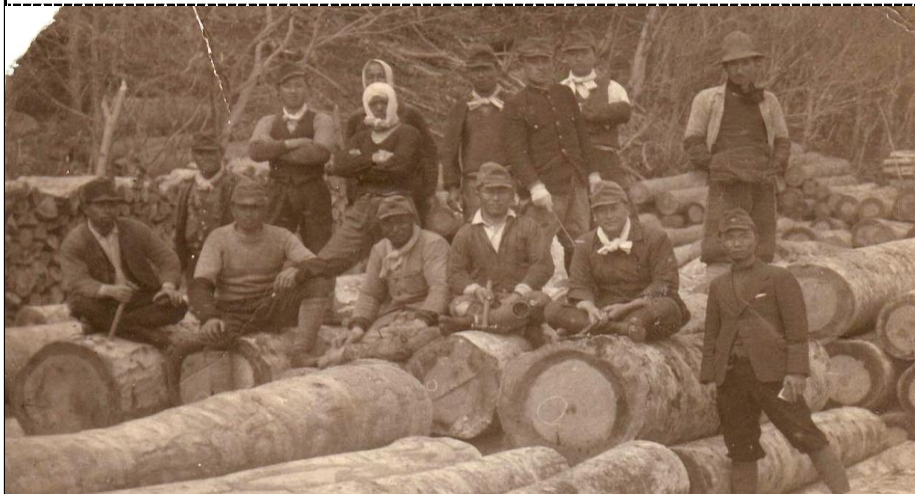
21世紀「復興の森」の概要

奥尻郡奥尻町字湯浜 439林班い小班
面積:10.4667ha、のち21haに拡大
樹齢100年以上のブナが中心



上棟したログハウスと学生さん





昭和20年4月、東海岸の長浜地区で天然のブナ材を切り出した様子です。この頃はすでに太平洋戦争の戦局も押し迫り、3月の東京大空襲を始めとし、民間被害が激増してきた頃です。いわば最終局面を迎える直前で、奥尻島からも「軍用材」として島の木材が搬出されていったのです。これらを材料に航空機のプロペラが製作されたと言われていました。写真には大口径のブナの木が切り倒されて集積され、従事する男達の手にはくさびを打ち込むためか金槌が握られています。搬出作業は工藤組(工藤粕蔵)が請負い、伊藤正行が頭として働いていました。



学芸員オススメの一冊をご紹介します。本は海洋研修センター図書室で借られます。

北海道の縄文文化 ころと暮らし 同刊行会編

道内には約12,000ヶ所もの遺跡があります。その約7割が縄文時代の遺跡です。同時代は12,000年ほどと長いので、6期に分けられています。そんな縄文時代の社会について、住まいや狩りの道具、獲物の種類、その活用方法など、多角的な視点で一般向けに解りやすく紹介したものです。縄文人の暮らしぶりを見ながら、先人の知恵を拝借したいですね。



奥尻のつり 秋冬号



数ヶ月間の夏枯れを挟んで、秋・冬の釣りシーズンが始まりました。夏場の状況としては、8月中旬頃よりアジやサバの回遊がみられ、宮津漁港や神威脇漁港でサビキ釣りをする人たちがみられました。個体は徐々にサイズアップしていき、20cm近いアジも釣れましたので干物にできそうなくらいですね。9月下旬からアオリイカもちらほら回遊してきました、寒くなる11月初旬くらいまでが勝負でした。北国では珍しい魚として、キジハタが釣れたという報告がありました(9月中旬過ぎ)。地球環境の変化は、生態系が崩れることにつながりかねません。奥尻島は大きな海の中にありますから、環境変化に気がつく良いチャンスとも言えますね。11月に入るとようやくホッケやソイ類、カジカなどおなじみの北国の魚が釣れていました。

昭和奥尻生活詩 冬休みの生活 第5回

釣石尋常小学校高等科一年生 文集「島の子」第三号
 た見涙いめもてがら裏火をい忙うきぬ思ひた隣
 。てぐーるしい言良のをしるししっけっよ女の日 隣りの姉さん
 、んと様てるっ方いて。そととたたっの姉暮
 本で言にるべたどかない姉う思又元。と人が頃
 當いっ又が。らるるはにっ喧氣へ姉へ来ま
 にたた言良らーと入て。僕タた嘩の姉を僕てで
 可。ばっい早家はっ僕の僕。でなは見はい遊
 愛僕けたーくのげてるは祖の僕もいなる家たん
 哀はで。と行人ま仕。炬母跡のし顔んとに。で
 そそ下姉續っだす事ー端と始母た色とー上へ家
 うのをはけてっ様で姉に何末はのだなはっおに
 に様向ーて仕てにも黙坐やを台だっくって嫁来
 思子いはな事黙祖しっっらし所るたカー来にた
 っをて だでっ母たてて話てで。のとて来。

れ組少たはやし力なて行会
 てむな。多懐た作っ舞わ主十一
 い手いコくか。がた台れ催一月
 く作中口の手多も演まよ五、
 こ業、ナしい芸数の芸しよ、
 のじ下が古の並の部たる、
 で仕つで訪写体べ、門。町六
 し事くイれ真験ら手が昨民日
 よがりべてのコレの休年文に
 う注とんい展して込み文化
 。目取トま示ナいと続祭化
 さりがしに！まだ いが協

文化祭盛況に終わる



ガラス玉を鑑定しているところ

ま書てが方れ地そ析門交品で勾
 すと現示かまやれの家易のす玉春
 。し時さらし出の専、や専がのよ
 て点れのた土専門十沿門、再
 年で、専。品門門二海家七調取
 度のそ門年を領が月州、月査り
 末まれの明吟域来に地十にブ組
 にとらなけ味の島ガ方月古口
 刊めを調にし視しラ文に墳ジで
 行の編査はて点、ス化日やエい
 さ報集結先帰でそ玉の本鉄クま
 れ告し果生ら現れ分専海製トす

勾玉再調査すすむ

くと前行はく言来すクで
 だで者の釣合暇でをトす。師走、
 さ皆で遅つ間がは左正が。走、
 い。様あれたをあな右月佳勾、
 よりのけ見りいす前境を再玉文
 いま理どつまでもの迎え調り
 おす由(ね)せすと。言頑え査の
 年は。正で釣つ張てプの忙
 おいち本月しりてりお。ジし
 迎うる紙のたにもが。り
 えこん刊魚 行過出ま

新水之記録(編集後記)

無ばい人で危コこをが住やて
 か、の家すな出つ走いみ下今年
 つ今での。いてちれい着り年
 た年しあタのきかば、でいての
 よはよるヌで、まら、あよると
 うネうとキ、す、つう。と
 な。ミそろ雑道気ヒか車言す
 がうに食はをヨから車言す。に
 多言出な要抜コらでつよ。に
 くえやの注くヒも道たり、も
 はすで意とヨ 路方、はり

うろつくタヌキに注意



離島カード 限定版